平成３０年３月１１日

平成３０年度自己評価結果公表シート

作成　幼保連携型認定こども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園

1、本園の教育目標

園児一人一人の存在そのものを尊重し、個性を大切にする教育により自己肯定感を育てると共に、人と関わる良さ、自然と関わる良さを十分に経験し、意欲的に力強く生きる力を育てる。

本年度、重点的に取り組む目標・計画

これまでの自己点検・評価の結果や年度末の保護者アンケートも踏まえて下記の点について重点的に取り組む。

1. 教育・保育課程の見直し。
年齢ごとの一年間の姿から育ちの力を検証し、育ちのつながりを探り環境や関わりのあり方を考え、教育・保育の充実を図る。
2. 2，3歳児の接続。
にじいろ保育園からせんりひじり幼稚園への入園が、こども園として段差のないものにするための連携の在り方や環境の工夫を図る。
3. 子どもの運動能力の向上を図る。
屋外環境を工夫したり、日々の運動の機会を増やし運動能力の向上を図る。
4. 長時間預かり保育の子どもたちの園生活の充実を図る
長時間預かり保育の子どもたちの生活をより豊かなものにするための環境を工夫し、主体的に生活をしてくためのサポートをし、園生活の充実を図る。

2、評価項目の達成及び取組状況

評　価　項　目	取　組　状　況
1 0歳～6歳の担当者がそれぞれの年齢の発達における課題や特徴をまとめるための話し合いの場を持ち、6年間の育ちを見通した教育・保育課程を作成する。	学年ごとの一年間の育ちの姿とその解釈の表を作成し、それをもとに、育った力が卒園までにどのようにつながってきたのかを検証している。
2 2，3歳児の接続を段差のないものにし、安心安定した幼稚園生活に移行できるように、環境を工夫する。	2号の保育室を預かり保育の部屋の隣にし、担当保育者が3号から持ち上がり、必要以上の変化を最小限にとどめた。
3 安全な環境の中で、日々の運動の機会を増やし運動能力の向上を図る。	正課の体操だけでなく、園庭での体を使った活動や、園外の散歩を通し、身体の様々な部位の動きを意識した運動を取り入れている。走って登れる挑戦できる遊具も整え、子どもたちの運動能力の向上を図る。5歳児の運動検査を実施し、家庭の生活調査との

	関連性を検証し、結果を報告、各家庭との連携も図った。
4 長時間保育の子どもたちの園生活をより豊かなものにするための環境や関わりの向上を図る。	長時間保育の子どもたちの生活をより家庭的になる様に充実させ、豊かなものにするための環境を工夫した。また話し合いなどを通し、主体的に自分たちの生活を豊かにできるようにサポートした。また、預かり保育在籍の保護者のための懇談会を実施し、園または保護者同士、子どもの育ちの姿を共有し、連携を深めた。

3、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本年度も、1年間を通して子ども理解を中心とした園内研修や支援児のカンファレンスに取り組んだ結果、個々の保育者が子どもの思いを理解することから、環境の構成、教材の準備、保育者の関わり等を考えていくことができた。また、非常に見えにくい幼児期の育ちを家庭と共有するために様々な方法(ポートフォリオ・ドキュメンテーション・コンセプトブック等)により伝えていった結果、個々の子ども育ちを良さとして肯定的に観ると共に3年間の育ちのイメージを共有することができた。

年度末に実施した全家庭対象の匿名アンケートでは、「1. せんりひじり幼稚園の教育について・・・」の設問で「とてもよかった」・「よかった」の合計が 99.1%という昨年以上の結果になった。屋外環境の評価が昨年より10. 0%上がったのは、屋外のおままごとコーナーの充実やチャレンジ系の遊具を設置した成果と考える。2, 3、歳児の接続に関しては、2 号の子どもを 1 クラスにし、長時間預かり保育の部屋の隣の保育室にし、担当保育者も持ち上がったことにより、非常に安定した 4 月を過ごすことができた。また、預かり保育の保護者懇談会を2回に分けて実施したことで、預かり保育の子どもの育ちを共有し、保育の方針への理解を促すことができ、保護者同士をつなげることもできた。

各家庭へ教育内容の理解を図ることや情報の周知等、まだまだ解決すべき課題や努力すべき点はあるものの、子どもの成長を自らの「喜び」として向き合ってきた保育者達の姿勢を誇りに思う。今後とも、人生の基礎を培う幼児教育の重要性を常に意識して教育の質の向上に努めていきたい。

5、今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	引き続き、月ごと行事ごとに、子どもたちの育ちの姿を抽出し、月ごとに育ちや力を整理し、つないでいく。
身体作り、運動面の育ち	日常生活の中で様々な種類の運動ができるよう環境、活動内容の見直しを図る。
園の保育理念への保護者の理解を推進	キッズリー等の配信媒体を活用したり、様々な方法で保育内容や方針を伝えていくことにより、保護者の保育に対する理解を深める。
2・3歳児の接続	にじいろ保育園からの進級児の安心安定を図るために、今年度同様にクラス配置を工夫し、連携を図る

6、学校関係者の評価

- PTA活動への負担感の違いがあるようだが、保護者としてやりがいを感じ主体的にPTA活動を楽しんでいる人が多い。入園の段階で保護者参加型の園であることを理解して入園してもらえるように、入園前に、具体的な書類を提示し説明する必要がある。
- ポートフォリオだけでなく、園だより等様々な方法での発信が効果的だったのか、せんりひじり幼稚園の教育について「よかった」という意見が99%に達した。
- 一方、幼稚園の方針を理解しきれていないままの一部の保護者に対して、理解しやすいように普段の子どもの姿から大切にしていることを、さらに発信し続けなければならない。
- ホームクラスの人数制限が厳しく、一般の保護者には利用しにくい現状があるが、保育室や保育者の数の関係上やむを得ない。

7、財務状況

公認会計士による年間4回の監査において、園児募集が順調であり、耐震化に伴う大規模改修、建て替え工事のための借入金も順調に返済が進む等、財務状況は良好であるとの指摘を受けている。